

南那須地区広域行政事務組合  
一般廃棄物処理施設整備基本計画検討委員会 第2回議事録（要旨）

【開催概要】

開催日時：令和3年2月10日(水) 13時30分～15時30分

開催場所：南那須地区広域行政センター 2階会議室

【出席者】

〔委 員〕

| No. | 区分    | 団体名等                  | 氏名     | 備考 |
|-----|-------|-----------------------|--------|----|
| 1   | 学識経験者 | 公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長 | 荒井 喜久雄 |    |
| 2   |       | 宇都宮大学 名誉教授            | 三橋 伸夫  |    |
| 3   | 那須烏山市 | 那須烏山市 副市長             |        |    |
| 4   |       | 那須烏山市 参事兼総合政策課長       | 石川 浩   |    |
| 5   |       | 那須烏山市 まちづくり課長         | 大谷 光幸  |    |
| 6   |       | 那須烏山市 都市建設課長          | 佐藤 光明  |    |
| 7   | 那珂川町  | 那珂川町 副町長              | 内田 浩二  |    |
| 8   |       | 那珂川町 企画財政課長           | 益子 雅浩  |    |
| 9   |       | 那珂川町 生活環境課長           | 高瀬 敏之  |    |
| 10  |       | 那珂川町 建設課長             | 佐藤 裕之  |    |
| 11  | 組合    | 事務局長                  | 塩野目 修一 |    |

〔事務局〕

| No. | 区分      | 団体名等              | 氏名     | 備考 |
|-----|---------|-------------------|--------|----|
| 1   | 組合      | 保健衛生センター所長兼施設整備室長 | 石嶋 賢一  |    |
| 2   |         | 施設整備室係長兼衛生センター係長  | 堀江 辰徳  |    |
| 3   |         | 衛生センター主査兼施設整備室主査  | 和田 敦子  |    |
| 4   | コンサルタント | 株式会社エイト日本技術開発     | 島宗 敬太郎 |    |
| 5   |         | 株式会社エイト日本技術開発     | 王 媚    |    |
| 6   |         | 株式会社エイト日本技術開発     | 穴吹 凌   |    |

## 1. 開会

## 2. あいさつ

## 3. 議題

### (1) 施設規模について

- ・資料1の計画ごみ量の推計及び施設規模について説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明。(事務局)
- ・ごみの排出原単位が上昇傾向にありますが、この原因は想定できているのでしょうか。(委員長)  
→明確な原因は想定できていません。他の比較的小規模な自治体では同様の傾向が見受けられることもあります。(事務局)  
→継続的な原因究明が必要と考えます。(委員長)
- ・那珂川町でもごみ量の削減目標を掲げているため、検討に加えていただきたいです。ごみ量の削減目標のため、一部の地域で生ごみの堆肥化等の減量施策を実施しています。(委員)  
→検討します。(事務局)
- ・那須烏山市では一般廃棄物処理基本計画を今年度中に策定する計画で検討が進んでいます。現状では、人口減少の割に世帯数が減っておらず、ごみ排出量も減少していません。高齢化により細かな分別が進まない現状もあると想定しています。一方で、市で実施している環境審議会及び一般廃棄物処理基本計画策定委員会では、意欲的にごみの削減に取り組んでいく方向で議論が進んでいます。主に生活系ごみで排出削減を推進する方向であり、生ごみの排出量削減や雑紙の分別なども検討しています。また、排出量の数値目標も設定しているため、その内容も記載してもらいたいと思います。ただし、町の数値目標は、意欲的な目標設定であることから、施設規模の算定のための排出量予測においては、施設の安定性、継続性の観点から参考値としての取り扱いが良いと考えます。(委員)  
→最新の構成市町の計画をどのように計画ごみ量の推計に盛り込むのか検討が必要と考えます。(委員長)  
→検討します。(事務局)
- ・施設規模と処理方式の関係を教えていただきたい。特に施設規模の設定による許容度への影響について説明してください。(委員)  
→処理方式への影響は少ないと考えます。許容度については、施設の稼働日数を増やすことで、処理量を増やし、施設の規模を下げる検討も可能です。(事務局)
- ・施設稼働目標が10年後との説明がありましたが、それまでの期間も長いので、現時点で実施した施設規模の根拠となるごみ排出量の傾向も変わるのではないのでしょうか。(委員)  
→施設稼働目標を考慮すると、施設規模は再度見直したほうがよいと考えています。そのため、現時点では、より現実的に達成可能な目標設定としました。(事務局)  
→発注の段階で最終的な施設規模が決まっていれば良いので、将来的にごみが減少したということになれば、それに合わせて施設規模の見直しを行うことでよいと考えます。

今後より詳細な検討を行います、施設計画では現時点での施設規模の想定ができればよいということです。（委員長）

- ・原単位の目標設定において、「平均的な目標」というのは、目標の根拠として曖昧ではないでしょうか。国の目標に準拠する等でも良いのではないのでしょうか。（委員）

→構成市町の計画や委員からのご意見を踏まえて、次回までに再度事務局内で検討します。（事務局）

- ・組合の処理フローは施設稼働目標である 10 年後まで変更の余地はないのでしょうか。（委員）

→国でもプラスチックの資源化の法令化等を検討しているため、法令変更に合わせて、その時点で構成市町の分別を含めて見直すことになるものと想定しています。（事務局）

→将来的な変更の可能性を文章にて表現したほうがよいと思います。（委員長）

- ・検討②が実現した場合に施設規模が 41 t /日となると理解しましたが、ごみの減量が計画どおりに進まなかった場合でも処理は可能でしょうか。（委員）

→ごみの減量が至らなかった場合には、計算上の施設規模はより大きな規模が必要となります。ただし、災害廃棄物の加算を見込んでおり、稼働日数を増やす対応も可能なため、ある程度は処理可能と考えます。（事務局）

→災害廃棄物処理の考え方として、市町村単独で処理するのではなく、広域で連携しながら処理をしていく事例が増えている。過去の大きな災害では、災害廃棄物を遠方まで運んでいる事例もある。（委員長）

- ・本日の審議を踏まえ、次回資料提示をお願いします。（委員長）

## （２）ごみ質について

- ・資料 2 のごみ質について説明をお願いします。（委員長）

→事務局より説明。（事務局）

- ・他自治体との違いや傾向を教えてください。（委員）

→し尿処理後の汚泥が処理対象に含まれている点が特徴的です。し尿処理汚泥は水分が多いため、発熱量が低い傾向となります。（事務局）

→汚泥の資源化等の意見もあるため、記載については検討いただきたい。（委員）

→し尿汚泥は環境省でも減量化の方針であり、焼却処理はスタンダードな方法と考えるが、ご意見を踏まえ事務局内で検討してください。また、他都市と比べると水分が多く、発熱量が低い傾向にあると感じました。（委員長）

→本日のご意見を踏まえて検討します。（事務局）

- ・ごみ質の検討では、災害ごみの扱いを入れていただきたい。東日本大震災でも別途処理施設を整備している事例があることから、施設で受け入れる条件等を提示していただきたい。（委員）

→検討します。（事務局）

## （３）ごみ処理方式の選定について

- ・資料 3 のごみ処理方式の一次選定について説明をお願いします。（委員長）

→事務局より説明。（事務局）

- ・図 1-2 の中で、コンバインド方式がどこに該当するかについて、示した方が良いと考えます。(委員長)
  - 承知しました。また、次回委員会ではアンケート調査の内容及びごみ処理方式の二次選定における評価基準を提示する予定です。(事務局)
- ・メタン発酵方式の対象となるごみはどのような種類でしょうか。(委員)
  - 資料 1 の処理フローでは燃やすごみが対象となります。資料 1 の種類組成では、紙類、木類・竹類、厨芥が対象となります。燃やすごみを破碎選別し、メタン発酵槽へ投入します。発酵後はバイオガスと残渣に分かれるため、残渣は焼却処理します。(事務局)
  - 湿式のメタン発酵というのは生ごみを分別して投入する必要があるが、乾式のメタン発酵は混合しているごみでも機械選別することから、燃やすごみを投入することで処理可能ということです。ごみ処理に携わっていない委員にもわかりやすい資料作成をお願いしたい。(委員長)
- ・溶融については、さまざまな議論がありますが、主にコスト面、二酸化炭素排出量、スラグの利用先、施設のトラブルなどの観点から採用が少なくなっています。県内には民間の溶融施設もありますが、一般廃棄物の処理施設では採用されていません。(委員長)
- ・各方式のメーカーの数がわかったら教えてください。(委員長)
  - 次回委員会で提示します。(事務局)
- ・熱回収を想定した場合、どの程度の発電が可能か教えてください。(委員)
  - 発電を行う場合、全国で一番小さい施設は小山市で 70 t /日の施設規模となっています。50 t /日以下の施設規模だと発電の実績はありません。50 t /日以下で発電をする場合にはメタン発酵方式を採用することになります。ただし、メタン発酵方式の残さを処理するため、焼却方式とメタン発酵方式の両方を整備する必要があります。(委員長)
- ・熱利用について、発電等の熱利用についても評価基準としたほうがよいと考えます。(委員長)
- ・事務局案に示されている 3 方式で今後二次選定を行うことでよろしいでしょうか。(委員長)
  - 了承。(委員一同)

#### (4) 委員会スケジュールについて

- ・資料 4 の委員会スケジュールについて(案)について説明をお願いします。(委員長)
  - 事務局より説明。(事務局)
- ・各審議内容は、概ね 2 回の審議を経るということによいでしょうか。(委員長)
  - ご理解のとおりです。(事務局)
- ・アンケート調査は、どのような方を対象に実施するのでしょうか。(委員)
  - 焼却施設を建設するプラントメーカーを対象とします。(事務局)
- ・委員会として最終目標はどのように考えたらよろしいでしょうか。(委員)
  - 報告書の策定を目標としています。第 4 回及び第 5 回委員会で報告書(案)を提示する予定です。(事務局)
- ・議会報告を最終の報告書作成の前に入れたほうが良いと考えます。(委員)
  - 事務局にて検討します。(事務局)

- ・ PFI 等可能性調査では、PFI 以外の ESCO 事業や指定管理者制度等も検討するのでしょうか。（委員）
  - 一般廃棄物処理施設の整備にあたって実績のある方式（PFI 方式、DBO 方式、公設公営方式）にて検討する予定です。次回の委員会で PFI 等手法の概要について説明する予定です。（事務局）
- ・ 稼働開始時期が変更になった理由を説明いただきたい。（委員）
  - 建設期間及び建設候補地関係で稼働開始時期が変更になる予定です。ご指摘を踏まえ、次回委員会では全体スケジュールが提示できると思います。（事務局）

#### （５）その他（次回の日程、内容等について）

- ・ 次回委員会は４月の開催を予定しています。後日、日程調整の連絡をします。（事務局）
  - 了承。（委員一同）

#### ６．閉会